

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

Q1. 次の傍線部「き」を識別せよ。

我れ昨日、京に行きき。

Q2. 次の傍線部「し」を識別せよ。

行きし人。

Q3. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

行きしかば、人ありき。

Q4. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月見せば、心慰めなまし。

Q5. 次の傍線部「き」を識別せよ。

昨夜、夢を見き。

Q6. 次の傍線部「し」を識別せよ。

来し方。

Q7. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

友、訪ね来しかば、喜びけり。

Q8. 次の傍線部「き」を識別せよ。

我れ京に住みき。

Q9. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我が思ひし人。

Q10. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月見しかば、心安らぎぬ。

Q11. 次の傍線部「ませ」を識別せよ。

春咲かませば、雪解けなまし。

Q12. 次の傍線部「き」を識別せよ。

嵐に倒れき。

Q13. 次の傍線部「し」を識別せよ。

唐土に渡りし僧。

Q14. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

雨降りしかば、出でられず。

Q15. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

古典を学びせば、いかに賢からまし。

Q16. 次の傍線部「き」を識別せよ。

物書きき。

Q17. 次の傍線部「し」を識別せよ。

嘆きし夜。

Q18. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月隠れしかば、夜暗かりき。

Q19. 次の傍線部「き」を識別せよ。

笛を吹きき。

Q20. 次の傍線部「し」を識別せよ。

過ぎし春。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物し給ひける。

Q22. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我が見し夢、忘れがたし。

Q23. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

知りしかども、言はず。

Q24. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

心あらせば、いかにあはれと思はまし。

Q25. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春しくれば、花咲く。

Q26. 次の傍線部「き」を識別せよ。

親に孝ある人なりき。

Q27. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我れ思ひしこと、皆実となれり。

Q28. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

鶯鳴きしかば、春來にけり。

Q29. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

雨降らせば、行かざらまし。

Q30. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いと楽しきことなりけり。

Q31. 次の傍線部「き」を識別せよ。

帝、御覧じき。

Q32. 次の傍線部「し」を識別せよ。

帝、御覧じし御文。

Q33. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月隠れしかども、なほ仰ぐ。

Q34. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

心知らせば、必ず告げまし。

Q35. 次の傍線部「し」を識別せよ。

行く春を惜しみし。

Q36. 次の傍線部「し」を識別せよ。

「我が見し人」と詠ふ。

Q37. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

物言ひしかば、答へにき。

Q38. 次の傍線部「き」を識別せよ。

父、世を捨てき。

Q39. 次の傍線部「し」を識別せよ。

世に語り伝ふることこそ、心ありぬべけれ。さ思ひし昔。

Q40. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

友、来しかば、酒酌み交はしけり。

Q41. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ若くあらせば、いかにせまし。

Q42. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我れ書かせし書。

Q43. 次の傍線部「き」を識別せよ。

命長くもありき。

Q44. 次の傍線部「し」を識別せよ。

来し方行く末。

Q45. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

雪降り積もりしかば、道見えず。

Q46. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

命あらせば、また会はまし。

Q47. 次の傍線部「し」を識別せよ。

花の色は移りにけりないたづらに我が身世にふる眺めせし間に。

Q48. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

都を出でしかば、心細し。

Q49. 次の傍線部「き」を識別せよ。

古き世に栄えき。

Q50. 次の傍線部「し」を識別せよ。

行かしむる。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ぞ／知りし。

Q52. 次の傍線部「し」を識別せよ。

なむ／聞きし。

Q53. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

こそ／思ひしか。

Q54. 次の傍線部「し」を識別せよ。

や／見し。

Q55. 次の傍線部「し」を識別せよ。

か／聞こえし。

Q56. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

思ひしかど、言はざりき。

Q57. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我が捨てし家、人住まず。

Q58. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

もし行かせましかば、悔いず。

Q59. 次の傍線部「ん」を識別せよ。

命のあらんかぎり、君を思はむ。

Q60. 次の傍線部「し」を識別せよ。

桜散りしころ、雪降りき。

Q61. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

親病みしかば、看取り侍りき。

Q62. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我れ仕う奉りし君。

Q63. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

もし神あらせば、なほ祈らまし。

Q64. 次の傍線部「し」を識別せよ。

古へに聞こえし人々。

Q65. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

言ひしかば、いと恥づかし。

Q66. 次の傍線部「し」を識別せよ。

露ばかり残りし思ひ。

Q67. 次の傍線部「き」を識別せよ。

心の鬼に責められき。

Q68. 次の傍線部「し」を識別せよ。

道のほとりに紫の生ひたりし草。

Q69. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

もの言ひしかば、聞き入れにき。

Q70. 次の傍線部「し」を識別せよ。

その後、影をだに見し人なし。

Q71. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

「来や」と言ひしかば、来ぬ。

Q72. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ知らせば、教へまし。

Q73. 次の傍線部「し」を識別せよ。

暮るるほどに着きし舟。

Q74. 次の傍線部「し」を識別せよ。

命しかなしき。

Q75. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

思ひしかど、口に出さず。

Q76. 次の傍線部「し」を識別せよ。

帝の見し夢に告げあり。

Q77. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

風吹かせば、波立たまし。

Q78. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いまし散らむ。

Q79. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

心強かりしかど、涙落ちぬ。

Q80. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我れ恋ひし人、もはやあらず。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 次の傍線部「し」を識別せよ。（伊勢物語）

昔、男ありけり。京にありわびて東の方に住むべき国求めにとて行きけり。…さても、なほ東へ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りぬ。…旅をしぞ思ふ。

Q82. 次の傍線部「し」を識別せよ。（古今集・在原業平）

月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身ひとつはもとの身にして

Q83. 次の傍線部「し」を識別せよ。(古今集・小野小町)

思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを

Q84. 次の傍線部「し」を識別せよ。(百人一首・崇徳院)

瀬を早み岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ

Q85. 次の傍線部「し」を識別せよ。(土佐日記)

京に思ふ人なきにしもあらず。さるは、便りごとに物も絶えず得しかど。

Q86. 次の傍線部「し」を識別せよ。(更級日記)

あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに生ひ出でたりし人。

Q87. 次の傍線部「し」を識別せよ。(源氏物語・桐壺)

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

Q88. 次の傍線部「しか」を識別せよ。(徒然草)

いみじき名馬なれども、悪しき名のうたて覚ゆなり。ことに名利を求むれば、いみじき名馬なりと思ひしかども、なほ売り給ひつ。

Q89. 次の傍線部「し」を識別せよ。(枕草子)

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

Q90. 次の傍線部「せ」を識別せよ。(古今集・在原業平)

世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし。

Q91. 次の傍線部「し」を識別せよ。(大鏡)

御年五十六にて隠れさせたまひにしかば、御諡を村上の御門と申す。

Q92. 次の傍線部「し」を識別せよ。(平家物語)

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。…おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。

Q93. 次の傍線部「しか」を識別せよ。(方丈記)

元暦の頃、大なみふること侍りしかば、よに有り難き事なりき。

Q94. 次の傍線部「し」を識別せよ。(伊勢物語・芥川)

白玉か何ぞと人の問ひし時露と答へて消えなましものを。

Q95. 次の傍線部「せ」を識別せよ。(徒然草・高名の木登り)

高名の木登りといひしをのこ、人を掟てて、高き木に登せて梢を切らせしに。

Q96. 次の傍線部「し」を識別せよ。(源氏物語・若紫)

雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠の内に込めたりつるものを。

Q97. 次の傍線部「しか」を識別せよ。(大鏡)

入道殿は、…我が御身も、いとよく舞ひたまひしかば、はやくよりよろづの遊びをもしたまひき。

Q98. 次の傍線部「し」を識別せよ。(源氏物語・桐壺)

朝夕の宮仕へにつけても、人の心をのみ動かし、恨みを負ふ積もりにや、いと篤しくなりゆき、ものの心細げに里がちなるを、いよいよあかずあはれなるものに思ほして、人のそしりをもえ憚らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。…前の世にも、御契りや深かりけむ、世になく清らなる玉の男御子さへ生まれたまひぬ。

Q99. 次の傍線部「し」を識別せよ。(古今集・在原業平)

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

Q100. 次の傍線部「しか」を識別せよ。(源氏物語・桐壺)

楊貴妃のためしも引き出でつべくなりゆくに、いとはしたなきこと多かれど、かたじけなき御心ばへのたぐひなきを頼みにて、まじらひたまふ。父の大納言は亡くなりて、母北の方なむいにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、なにごとの儀式をももてなしたまひけれど、とりたててはかばかり後見しなければ、事ある時はなほよりどころなく心細げなり。…前の世にも御契りや深かりけむ、世になく清らなる玉の男御子さへ生まれたまひにしかば、いつしかと心もとながらせたまひて、急ぎ参らせて御覧するに、めづらかなる児の御容貌なり。